“バイオで馬を観るヒマもない”

PROFILE

古賀員雄
名古屋コンテナー（株）代表取締役
出身／佐賀県生まれ
血液型／B型
信条／初志貫徹
夢／自分の生産した馬でダービーをとること
好きな言葉／忍
嫌いなこと／虚飾

KAZUO KOGA

サラブレッドをこよなく愛し、四月に生まれるメジロマックィーンの子供を楽しみにしている名古屋コンテナーの古賀社長。フランス出張に旅立たれる直前という、お忙しいなかのインタビューでしたが、塩酸を手のひらに落としてみせたり、灰皿を無臭にしたりと、すばらしい開発製品の効果を目の前で実験していただきました。まるで魔法のようなバイオの力に、花井さんも驚きの連続だったようです。

こう忙しくては、馬が走るところも見られない！

――フランスに行かれるそうですが、お仕事ですか？それともご趣味の馬のことで？

古賀『フランスのニースに事業所を持っていまして、そこに行くんです。イギリスとかフランスは好きで何度も行きましたが、あっちで事業所を持つとは夢にも思いませんでした。』

――するとお仕事がらみではありますけれど、本場の競馬に触れる機会も多くなるのでは？

古賀『ならいいんですけどね（笑）。イギリスの競馬は、やはりすばらしいですよ。あの国は女王さんからして、馬を持ってらっしゃるでしょう。大変なステータスなんですね。私が行った時も待遇が違うんですよ。オーナーともなると敬意を表してくれるんでしょうか。観覧席から食事から、すべてロイヤルボックス。一般の人が入れない場所でも、日本の馬主のバッチを付けるとスッと入れる。そういう国なんですね。』

――あちらの映画など見てますと、ダービーなどでは皆さんすばらしい正装で来ているんですが、お支度が大変なんじゃないですか。

古賀『そうですね女房なんかは着物ですよ。日本の着物は正装として十分通用するんですよね。洋服だとフォーマルドレスです。帽子は絶対欠かせません。』

――サラブレットはどれくらい前からご趣味にされているのですか？

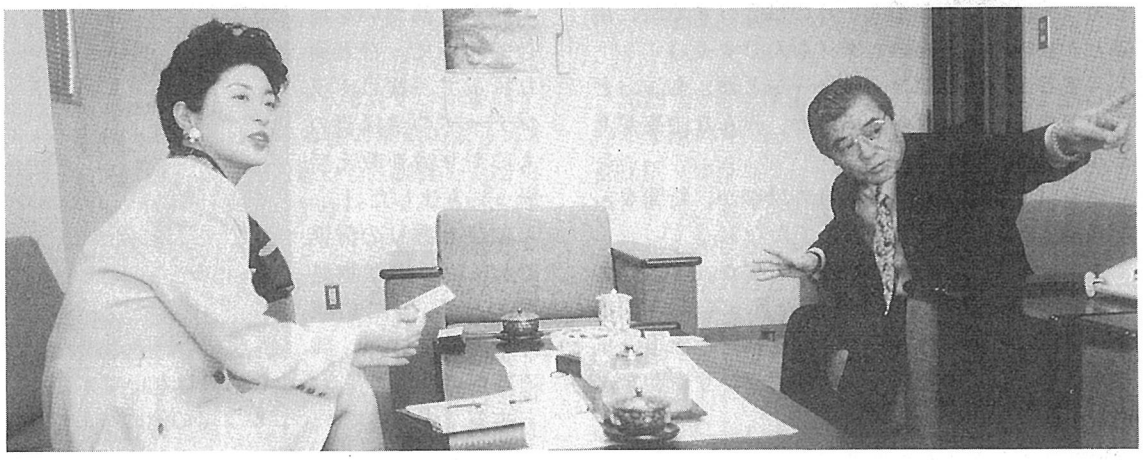
古賀『25年くらいになりますか。最近は仕事が忙しくて、自分の馬が走るところもほとんど見られなくて、馬も五頭しか持っていません。』

――えーっ！五頭しか、ですか。五頭も、じゃないんですか。

古賀『以前は十数頭持ってました。今はとてもそんな余裕ありませんよ。』

――では、たくさん持っていた馬の中で、特に印象深かった馬があると思いますが？

古賀『名前はちょっと忘れちゃいましたが、ダービーに出た馬ですね。笠松競馬場に安藤という



有名な騎手がいますが、彼が乗って出場してくれて。調子がよくて、これはいけるぞって感じだったんです。ところが第4コーナーで、青竹がまっぷたつに割れるようなバシーッていう音がして骨折してしまったんです。安藤騎手も言ってましたが、あそこで足が折れなきゃ“勝った！”という手ごたえがあったらしいです。そんな思い出でがありますね。』

――残念なことしましたね。ダービーも、馬自体も。

古賀『そうですね。かわいそうなことをしました。せめてもと思い、たてがみを切って、竜泉寺の馬頭観音に御祈祷してもらって帰ってきました。それが葦毛の馬でね。僕は葦毛の馬が好きだったんですが、それ以来、見ると思い出してつらいので葦毛の馬は飼わなくなったんです。最近ようやくその思い出も遠くなったので、また葦毛がいますけど。あ、そうそう、今年の四月に生まれるのがメジロマックィーンの子供で、楽しみにしてるんですよ。』

――いい血筋なんですね。葦毛が出るといいですね。私ね、昔飼ってた茶色い犬が鼻すじにシュッと白い毛が入ってたんですよ。馬の場合はそれを“ほとけづら”と言うらしいですね。だからかも知れないんですが、“ほとけづら”の馬を見ると親しみを覚えます。

古賀『そういう特徴が、全部血統書に載るんですね。特徴がどういうふうに出るかというのは、血統の世界では実に大切なんです。馬は血統で走るって言いますでしょ。』

――名馬ですと、引退後も種馬として活躍しますものね。

古賀『ところがね、僕もいろいろと馬の世界へ首を突っ込んで知ったんですが、馬の場合は母馬が良くないとダメ。いくら父親が一流の血を分け与えてもダメだね。“種馬”じゃなくて“畑馬”ですね。』

――うーん、それは知らなかった。私も頑張らねば（笑）。

古賀『それがね、人間の場合は逆なんだそうです。男の方が良くないとダメらしいですよ。聞いた話ですけどね。』

――ところで馬の名前って一種独特ですよね。古賀社長の馬は、名前は御自分で？

古賀『そうです。初めの頃は、ウチが“名古屋コンテナー”でしょ。“メイコン何々”とかつけてました。“メイコンカチドキ”なんてね。ところがこれをやりますと、あ、あれは名古屋コンテナーの社長の馬だ、ということになっちゃいますので、今はフリーにつけてます。辞典を引き出してきて。

というのは、馬の名前というのは登録する時に由来とか意味を書かないとダメなんですよ。』

――すると、メジロマックィーンとか、ちょっと古いですけどテンポイントとか、みんな由来があるんですね。

古賀『テンポイントというのは確か、新聞なんかの活字の大きさだとか言ってたなぁ。』

――エッー！活字の大きさなんですか。そういえば9ポイントとか10ポイントとか言って、活字の大きさを指定しますけど、まさかそれだとは思いませんでした。この間亡くなった“シンザン”なんかも…。

古賀（さえぎるように）『シンザンはまだ生きてるよ！』

――あらーっ、勝手に殺しちゃいけないですね(笑)。

古賀『あれだけの名馬ですからね。たとえお金にならなくても大事にされてます。花井さん、厩舎へ行ってごらんなさい。バリバリ走ってる馬は、こ～んなに（手を大きく広げて）藁を敷いてもらってるけど、走らん馬は地ベタが見えてるから。』

――実力主義というか、生産能力次第の厳しい社会ですね。競走馬の使命かも知れませんが。

古賀『それはそうですよ。やはり速い馬、走ってくれる馬は可愛いです。こう忙しくては、走るとこも見られなくて残念ですけどね。』

仕事は仕事、趣味は趣味
今度のフランス出張も五日間の強行日程

――編集部で、名コンさんはバイオで堆肥を作ってらっしゃるとか聞きましたが、その事業が多忙を極めてるんですか？

古賀『いや、酵素なんですよ。ウチが開発した酵素は、ひと握りで人間の排泄物1トンの処理ができるんです。阪神大震災は今、衛生的にも大変な状況ですよね。仮設住宅や体育館はまだいいんですが、テントなどの回りは、どうしても、臭くて眠れないとか、いろいろあるわけです。それで芦屋市の方から頼まれて処理に行きました。ウチの人間が全部臭いを消して回って。ひと通り行って、後はボランティアの清掃班の人にやり方を教えて帰ってきました。』

――ひと握りの酵素で1トンの排泄物処理なんて、すごい威力の酵素ですね。薬で言う“副作用”みたいなものはないですか。

古賀『大丈夫です。ゴルフ場の池のヘドロなんかも、鯉がすんでる状態でキレイになります。沖縄のゴルフ場なんかヘドロが1.1メートルあったんです。千トンの水で水深が2メートル、それが五ケ月間で沈んでたゴルフボールが見えるようになりました。』

――泥沼が湖になっちゃうような話ですね。しかも魚がいるままでキレイになるなんてすばらしいですね。池や河がヘドロ化しますと、ニオイがすごいでしょ。私は堀川の近くに住んでるのですが、風向きによっては川のニオイが入ってきます。雨の日は三匹の猫のトイレのニオイ。もう悩まされてます。

古賀『猫ならいいのがありますよ。ちょっと待ってて（すぐ一本のスプレーを持って帰ってきて）。これこれ。ニオイなんかすぐ消えちゃう。（吸ガラのたまった灰皿にシューッとひと吹き）。ちょっと嗅いでごらんなさい。』

――ホント！無臭になっちゃった！生ゴミでもいいですか。

古賀『もちろんいいです。ハエも来なくなるしね。ウチは今、酵素を使って生ゴミの処理をしてますが、生ゴミの山にボコボコと穴があいてね、どんどん減っていくんです。これからはゴミは緑化資源として土に還すのが一番じゃないでしょうかね。それにしてもこれから環境対策、ことにゴミの問題というのは大切です。』

――ゴミだけではなく、いかに人間と地球にやさ

INTERVIEWER

花井　美紀

（株）コミュニケーションデザイン代表
イベント司会・コーディネイター、
ビジネスマナーインストラクター、
信用金庫協会女子職員講座の専任講師。
TV、ラジオ等で現在活躍中。

しいモノづくりをするか、から考えていかないとダメですね。たとえば、ある種の洗剤のように、食器の油は落とすが、手を荒らし、水質を汚染するとか。いろいろありますよね。

古賀『手荒れは女の人にとって深刻な問題ですよね。あ、そうそういいのがありますよ（再び退室。また違ったスプレー缶を持って）。これこれ。皮膚に完全な皮膜を作るんです。雑菌なんかもシャットアウトするから、手袋のかわりに外科手術なんかでも使われ出してます。洗っても4時間は落ちないんですよ。これで膜を作ると、硫酸や塩酸も熱くない。（花井さん疑わしそうな目でスプレーを取り上げる。それを察知したのか古賀社長、バイオ事業部の太田チーフを呼んで実験に及ぶことに…。）

太田『（スプレーから少量の泡を取り出して）これを爪の間にも手のひらや甲全体にも、まんべんなく塗り込んで、ほら、こうして塩酸を落とします（手のひらに塩酸が溜まっている。太田さん平気）何ともないでしょ。』

――これ、ホントに塩酸ですよね。（まだ信じられない様子）。

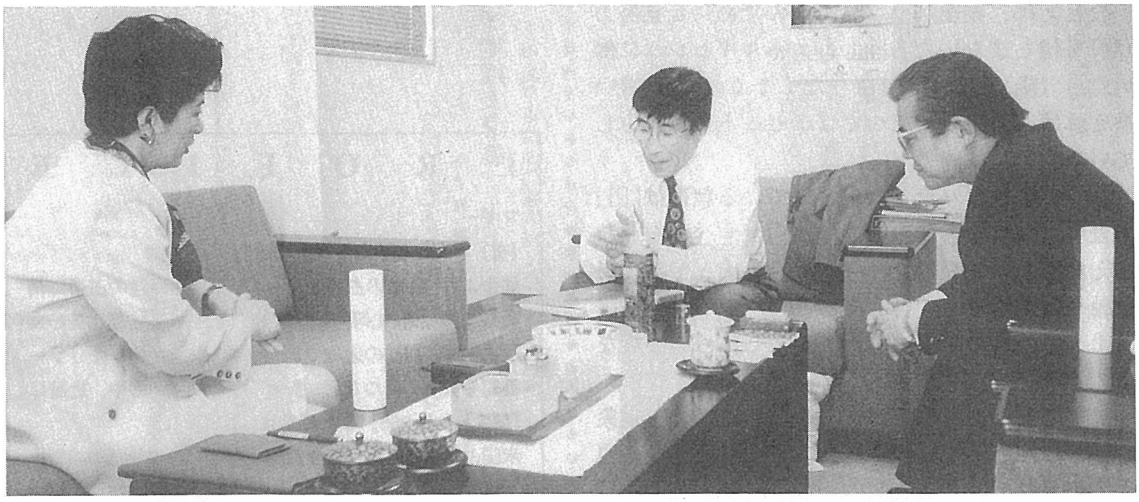
太田『そうですよ、ホラ。（と、一円玉を手のひらの塩酸の中に。一円玉、静かに溶け出す。古賀社長『コラコラ、一円玉がもったいない！』）

――わぁ、ホントに完全な皮膜を作っちゃうんですね。それじゃ、いろんなことに応用できるじゃないですか。たとえば女性が髪染めるとき、顔や手に塗っておけば、ついた染料は洗い流すだけでOKですね。

古賀『それ、女房がやってます。喜んでますよ。漆なんかにもかぶれません。』

――先ほどの酵素の話と言い、これと言い、社長はお仕事がおもしろくてしょうがない、と言った感じですよね。新しい製品の開発と発展が、趣味のサラブレットにとって変わりつつあるんじゃないですか。

古賀『かも知れないな（笑）。でも仕事は仕事、趣味は趣味。あくまで基本が違いますよ。』

――今度のフランス出張の帰りに、イギリスの競馬場で遊んでくることはないですか？

古賀『ないない。行って帰って、たった五日間の強行日程だもの（笑）』